

Outlook アドインマニュアル

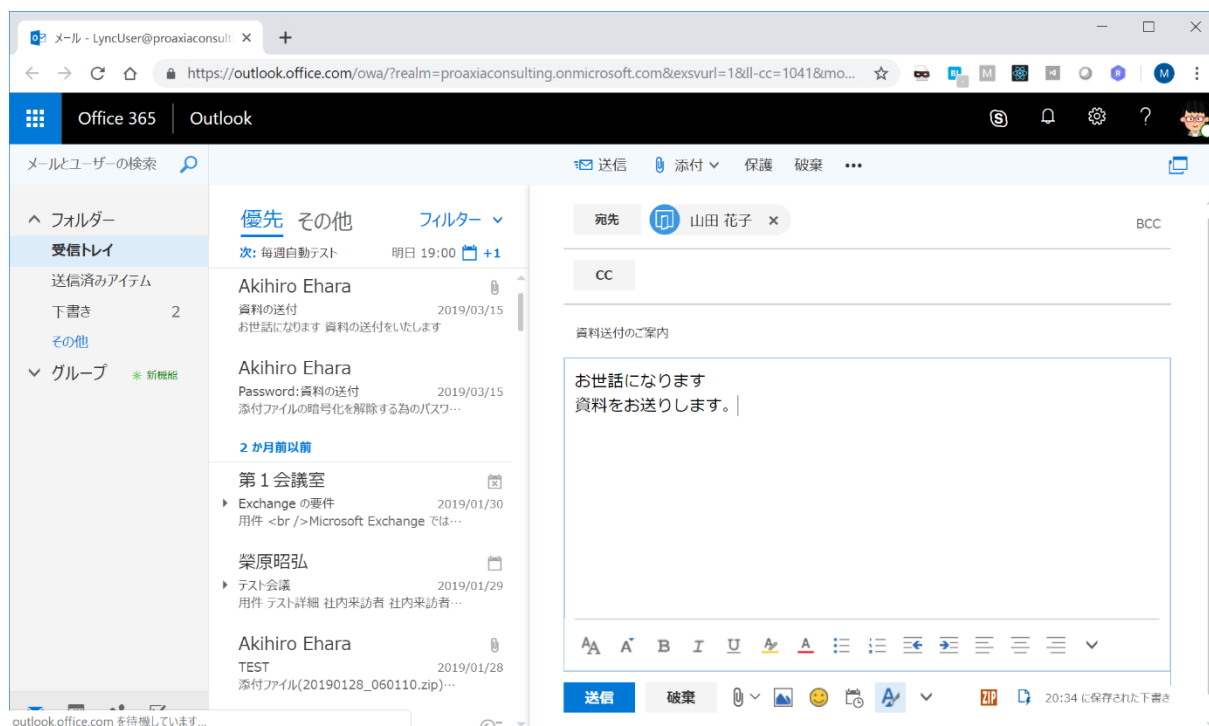
Office365 社外メール送信警告&添付ファイル暗号化アドイン（WEB 版） V1.3.2

内容

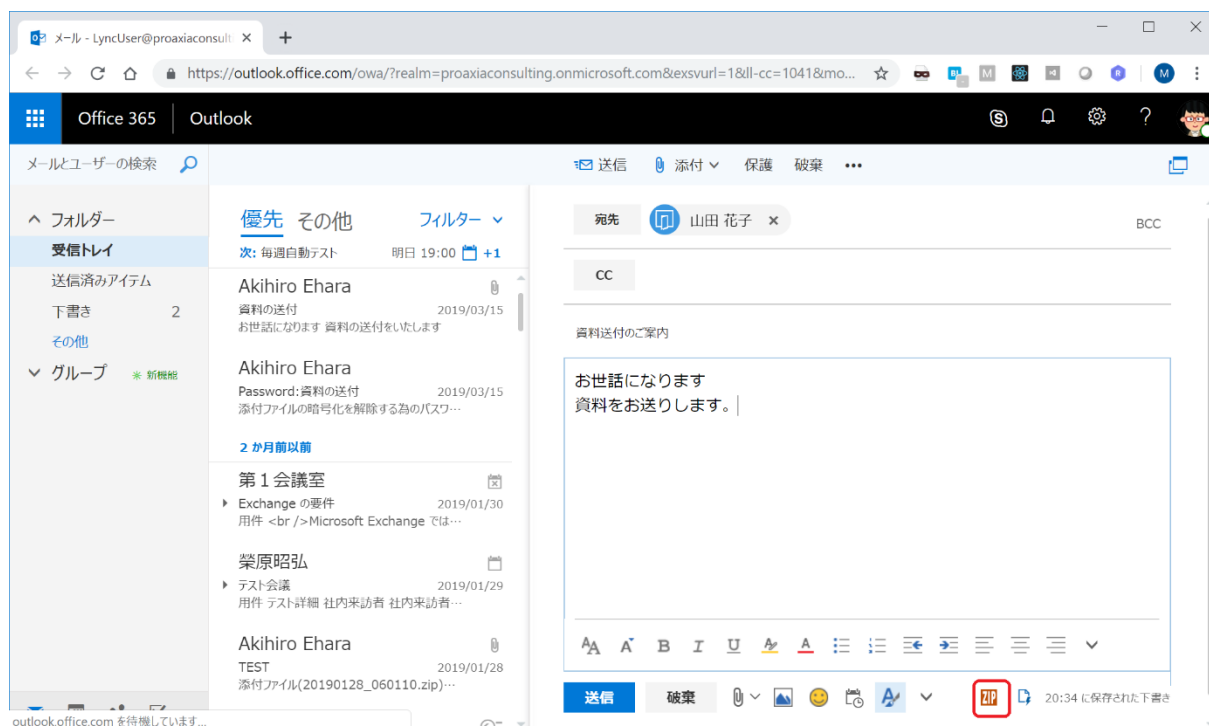
添付ファイルの暗号化	2
パスワード通知メールの送信	8
社外メール送信時の警告	10
デスクトップ版 Outlook 「ZIP アイコン」を利用した暗号化・パスワード送付	13
添付ファイルの暗号化（デスクトップ版 Outlook 「ZIP アイコン」利用）	13
パスワード通知メールの送信（デスクトップ版 Outlook 「ZIP アイコン」利用）	17
アドインインストール(マニフェストの登録)	18
社外メール送信警告アドイン インストール準備作業	21
インストールオプション	26
社外メール送信警告	26
参考) アドインインストール(マニフェストの登録 個人ユーザ毎)	27

添付ファイルの暗号化

1. ファイルを添付するメールの準備をします。通常のメール作成手順と同じように宛先やタイトル、本文を作成します。



2. ZIP アイコンをクリックして添付ファイル保護を起動します。



【アドインパネル】

ZIP アイコンをクリックすると右のエリアにパネルが表示されます。このパネルを操作することで ZIP 暗号化したファイルを添付することができます。

1. パスワードの設定

■自動生成ボタン

パスワードを自動生成します。クリックするたびに新しいパスワードを生成します

■パスワードを表示

ON にするとパスワードを表示することができます。

■パスワード・確認

パスワードを手入力することができます。確認はパスワードの確認でパスワード欄と同じものを入力します。

2. 送信ファイルの選択

■追加ボタン

添付するファイルを選択します。複数指定することができます。

■ファイルのドロップエリア

ファイルをドロップすることで添付するファイルを指定することも可能です。

3. ファイルを添付

■添付

2で選択したファイルをメールに添付します。

■ファイル名

添付するファイル名を指定します。拡張子は何も指定しない場合は「.zip」になります。「20190327_114454.zip」など明示的に拡張子を指定することもできます。

■エンコード UTF-8 SJIS

ZIP ファイル化する中のファイル名のエンコードを指定します。送信先で利用する ZIP の解凍ツールに選択します。Windows 向けには SJIS、MAC 向けには UTF-8 が一般的ですが、ファイル名が文字化けする場合に利用します。

【参考】新しい Outlook を ON にした場合 ZIP アイコンが表示されていない場合があります。この場合は・・・をクリックすると ZIP アイコンが表示されます。

ZIP 添付ファイル保護

1. パスワードの設定

自動生成

☐ パスワードを表示

パスワード

.....

確認

.....

2. 送信ファイルの選択

追加

送信するファイルをここにドロップするか追加ボタンで選択してください

3. ファイルを添付

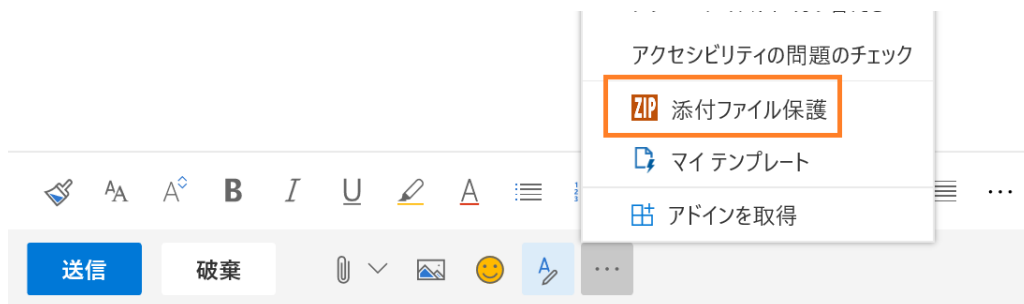
添付

ファイル名

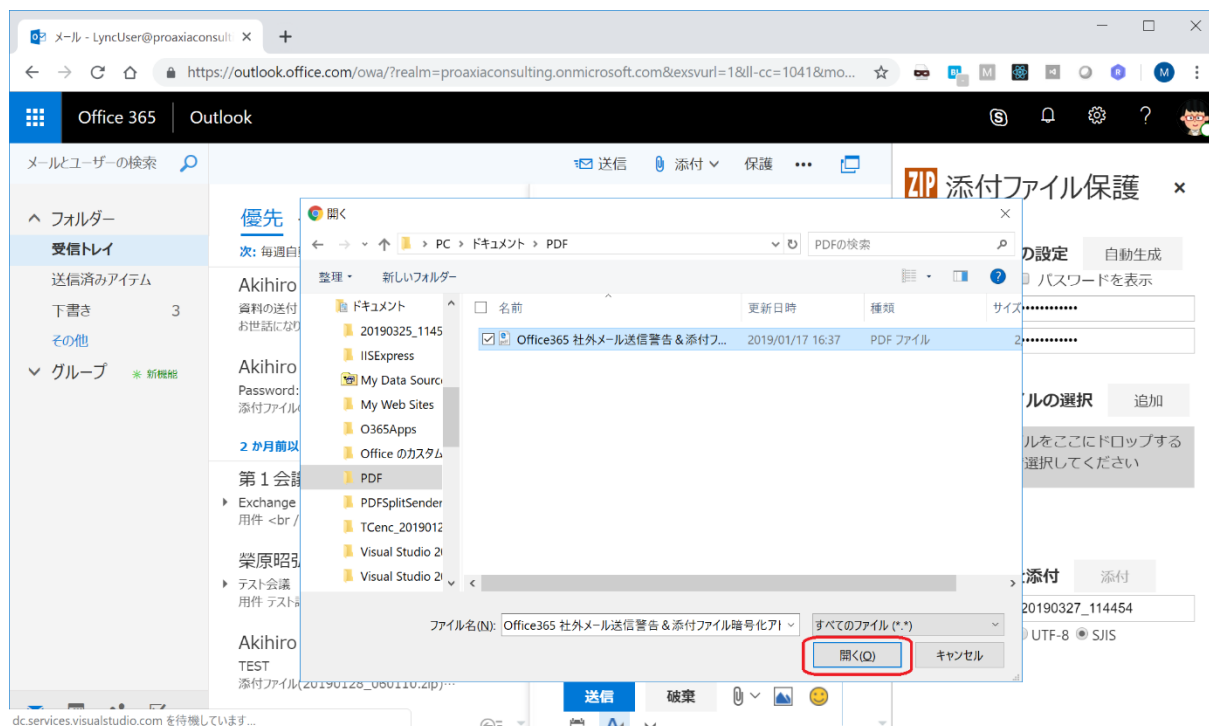
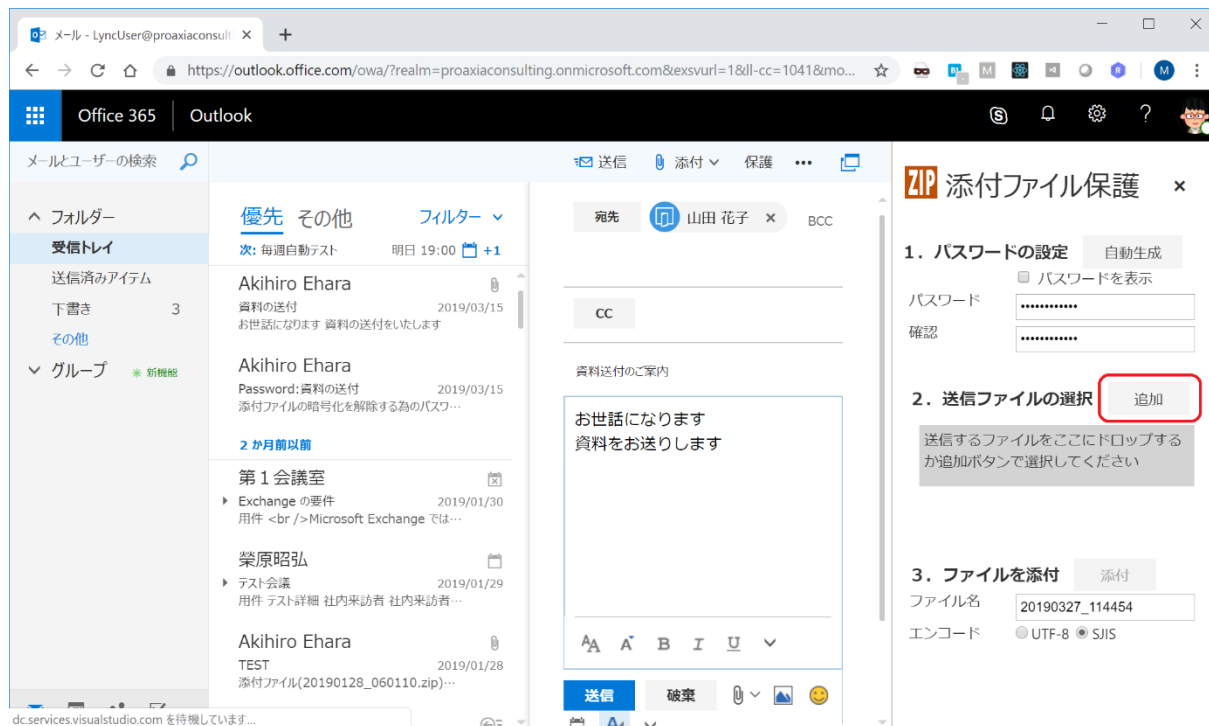
20190327_114454

エンコード

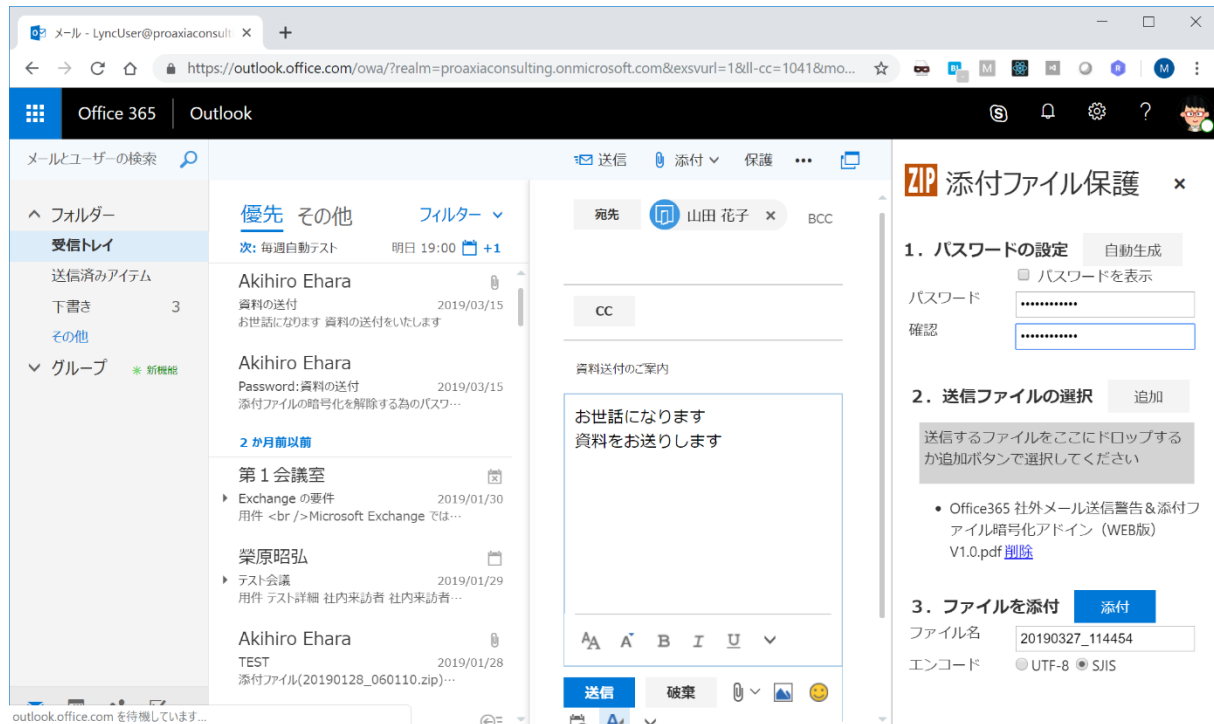
☐ UTF-8 ☒ SJIS



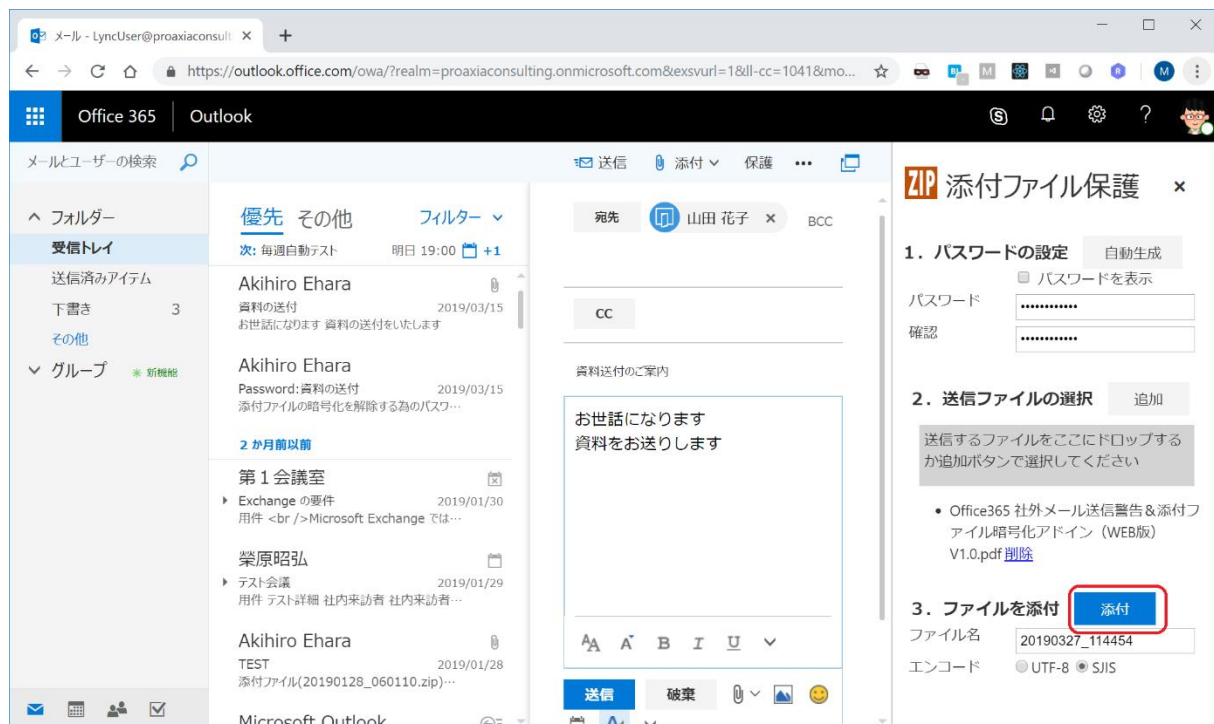
3. 追加ボタンまたはドラッグ&ドロップで添付するファイルを選択します。

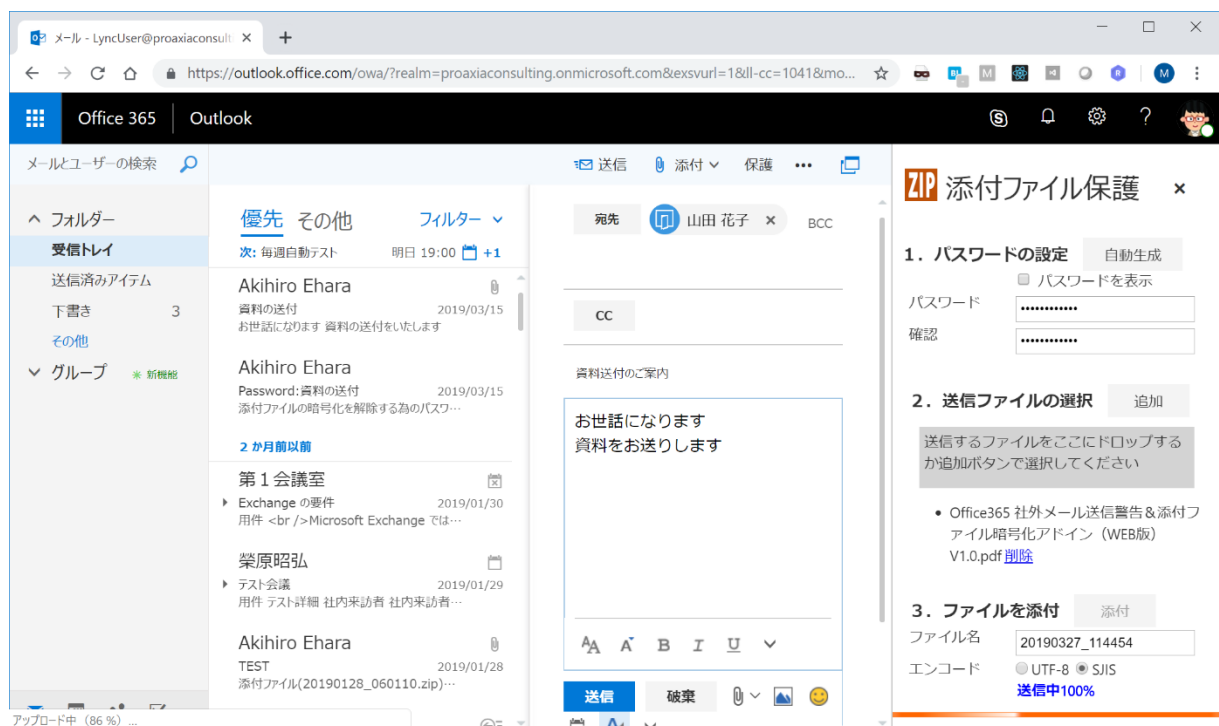


選択したファイルが一覧に追加されます。

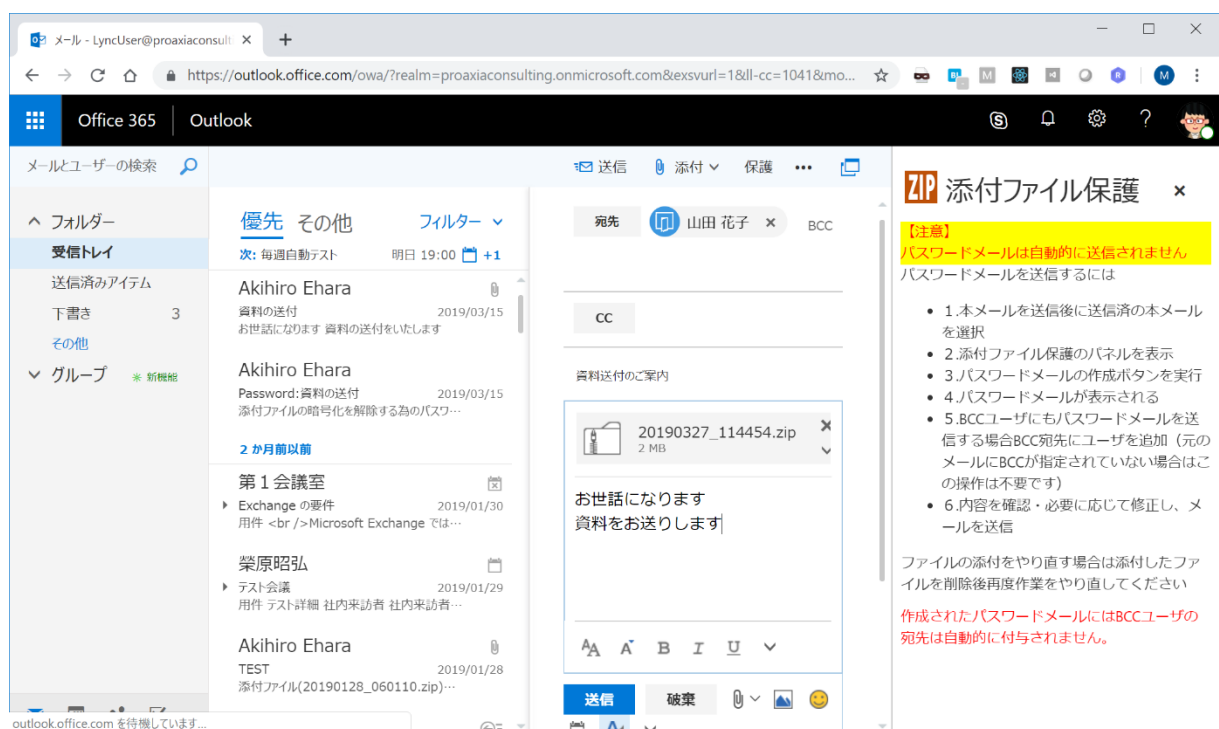


4. 添付ボタンでメールに ZIP 暗号化したファイルをメールに添付します。



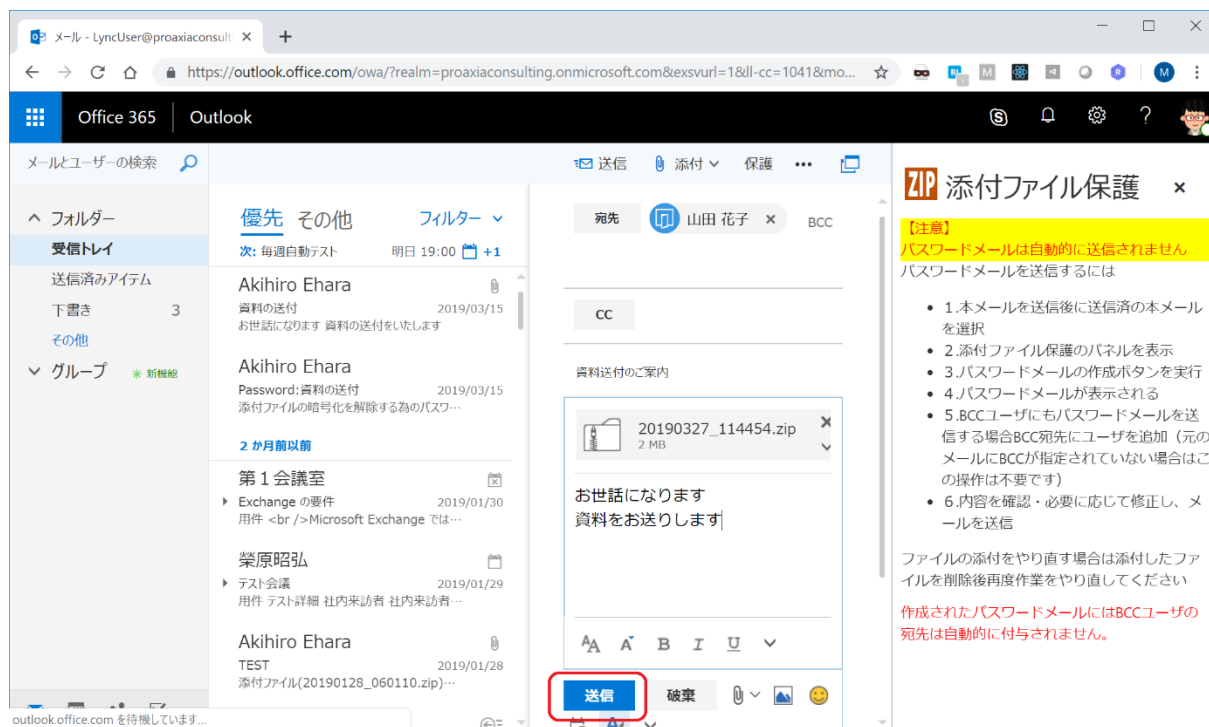


ファイルの添付が完了するとアドインのパネルにパスワードメールの送信方法をガイドする内容が表示されます



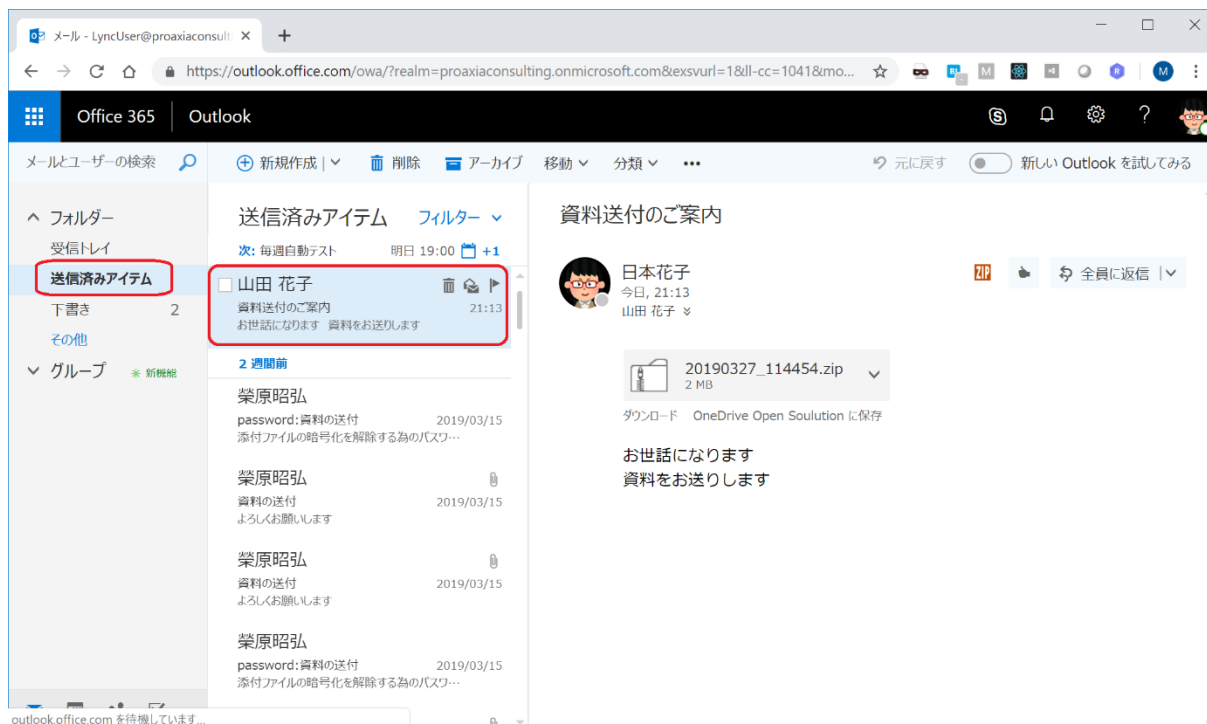
【参考】通信障害などで添付が失敗した場合、一旦アドインを閉じて再度 ZIP アイコンをクリックして起動しなおして添付作業をやり直してください。またまれに添付の失敗後に添付ファイルを削除できないことが発生します。この場合は、メール自体を再度作成し直して再度添付を行ってください。

5. 送信ボタンでメールを送信します。（自動的にパスワードの通知メールは送信されませんので、送信後、後述するパスワード通知メールの送信を行います）



パスワード通知メールの送信

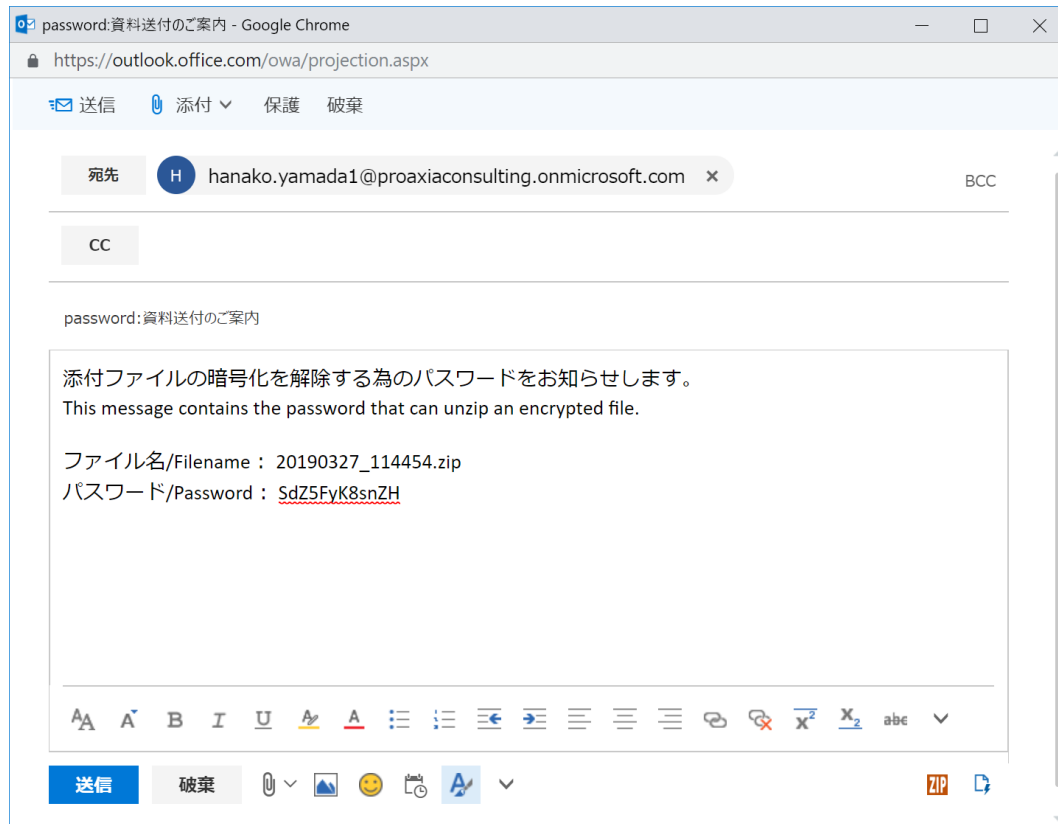
1. 左パネルの送信済みアイテムをクリックします。送信済みからファイル暗号化を実施したメールを選択します。



ZIP アイコンをクリックして添付ファイル保護を起動します。



パスワードメールの作成を行うとパスワードを含んだメールが作成されます。元のメールのタイトルや宛先（TO,CC）については情報が自動的に複製されますが、BCC については複製されないため必要に応じて宛先に追加します。

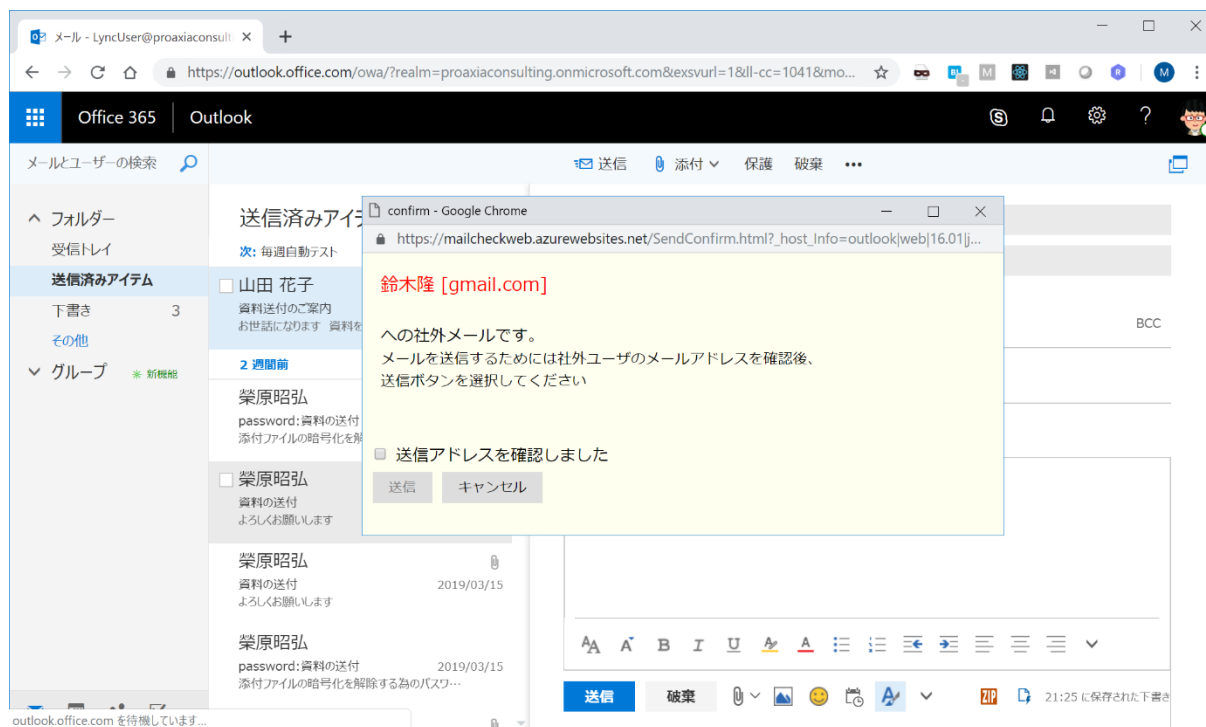


2. 作成されたメールを送信します。必要に応じて文面を変更することも可能です。

社外メール送信時の警告

新しい Outlook を ON にすると社外メール送信機能は利用できませんので、必ず OFF にしてご利用ください

1. 送信先に社外ユーザが含まれていると警告のダイアログが表示されます。

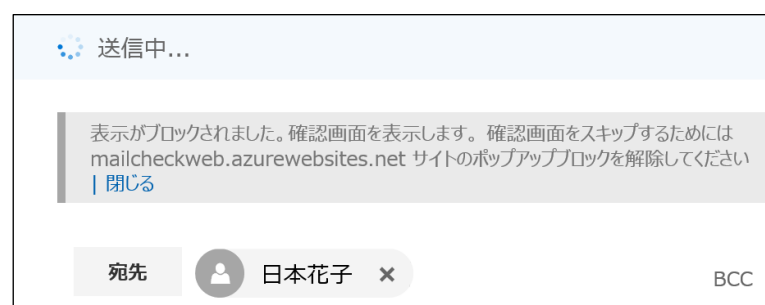
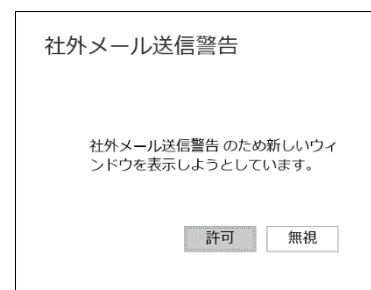


【ポップアップブロック】

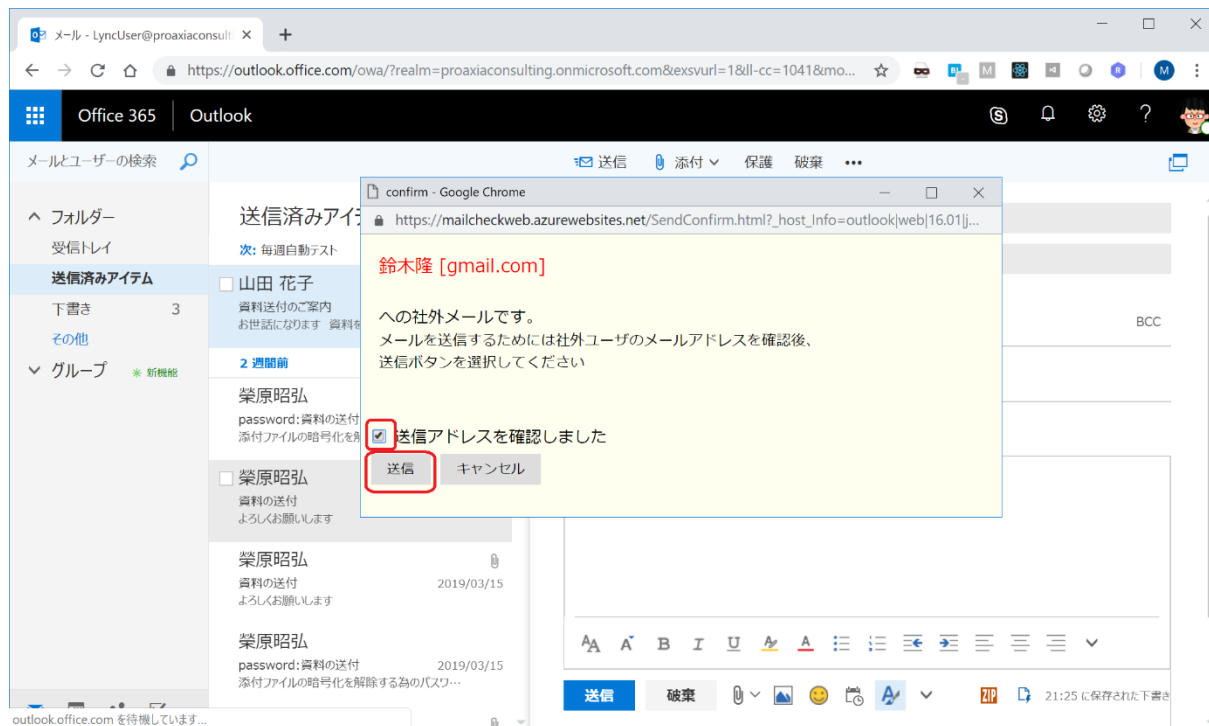
社外メール送信警告アドインサイトのポップアップが禁止されている場合「社外メール送信警告」ダイアログが表示されます。許可をクリックすると送信警告のダイアログが表示されます。

なお、このダイアログを表示させないためには、該当サイトのポップアップブロックを解除してください。

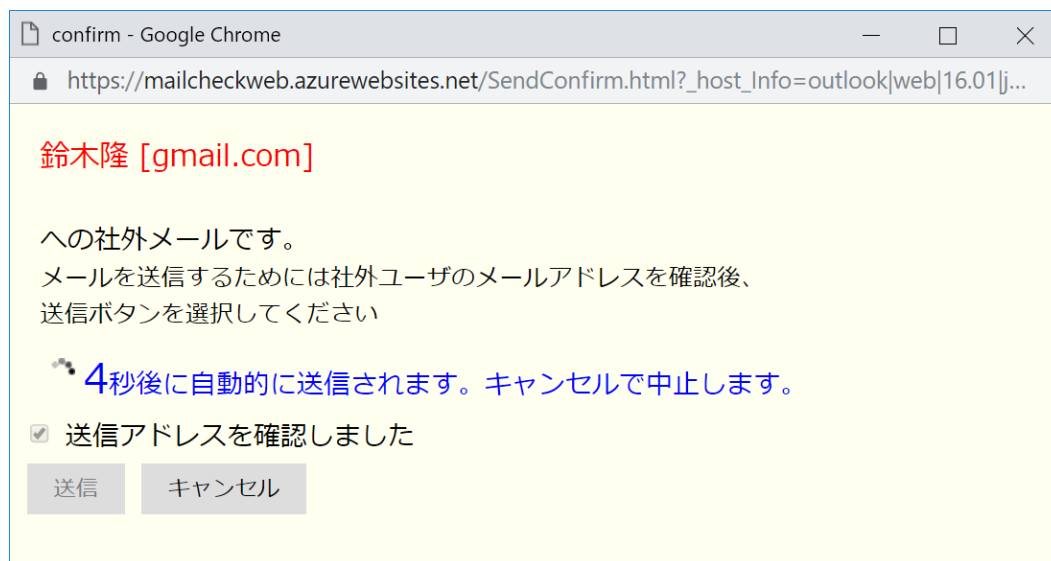
ポップアップを許可するサイトはブロックされた際に以下のようなメッセージがメール上部に表示されますので、その指示にあるサイトを解除してください。ブロック解除の方法はブラウザ毎に異なるため、各種ブラウザのヘルプ等を参考にしてください。



送信先を確認し、送信ボタンを選択します。



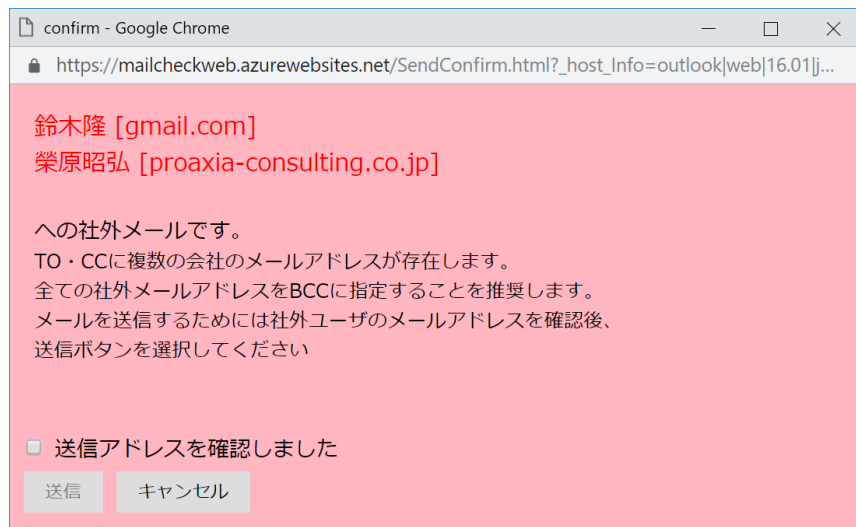
メール送信のカウントダウンが開始されます。



時間が経過すると自動的に送信されます。 送信中止を選択すると送信処理を中止します。

【社外メール】

宛先に送信者と異なるメールドメインが存在する場合に社外メールとして判断し警告のダイアログが表示されます。この社外のメールドメインが1つの場合は背景が黄色の警告ダイアログになりますが、複数の会社のメールドメインが存在する場合は背景がピンクのダイアログが表示され BCC を利用するようにガイドするようになっています。



confirm - Google Chrome

https://mailcheckweb.azurewebsites.net/SendConfirm.html?_host_Info=outlook|web|16.01|j...

鈴木隆 [gmail.com]
榮原昭弘 [proxia-consulting.co.jp]

への社外メールです。
TO・CCに複数の会社のメールアドレスが存在します。
全ての社外メールアドレスをBCCに指定することを推奨します。
メールを送信するためには社外ユーザのメールアドレスを確認後、
送信ボタンを選択してください

☐ 送信アドレスを確認しました

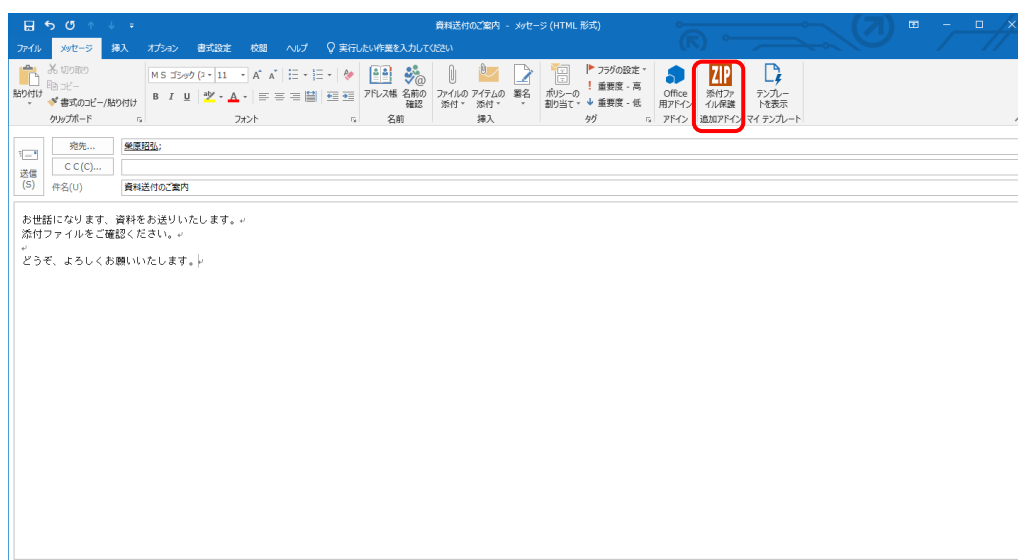
送信 キャンセル

デスクトップ版 Outlook 「ZIP アイコン」を利用した暗号化・パスワード送付

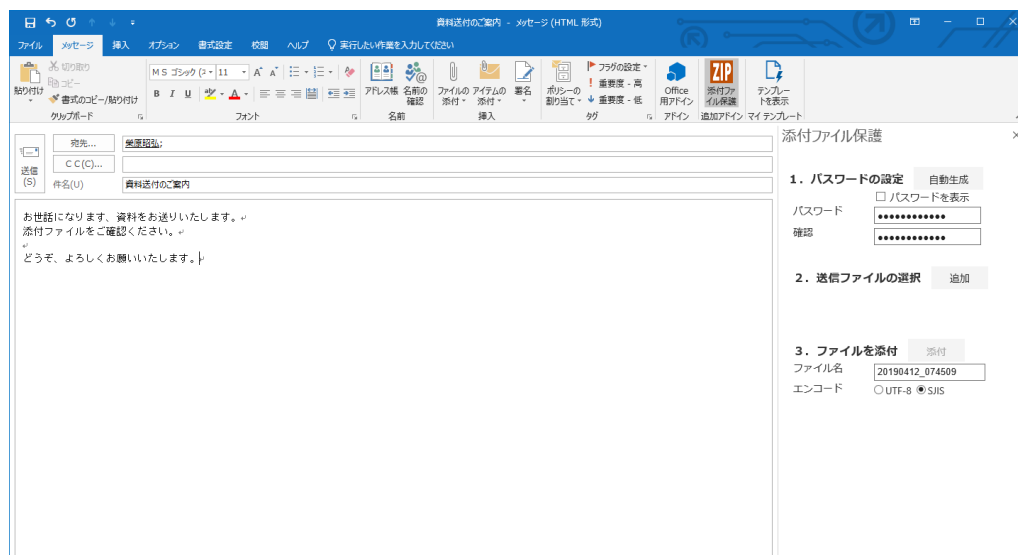
WEB 版アドインをインストールすると、デスクトップ版 Outlook の画面右上に「ZIP」のアイコンが表示されます。この「ZIP アイコン」を利用してメールに添付するファイルを暗号化することも可能です。

添付ファイルの暗号化（デスクトップ版 Outlook 「ZIP アイコン」利用）

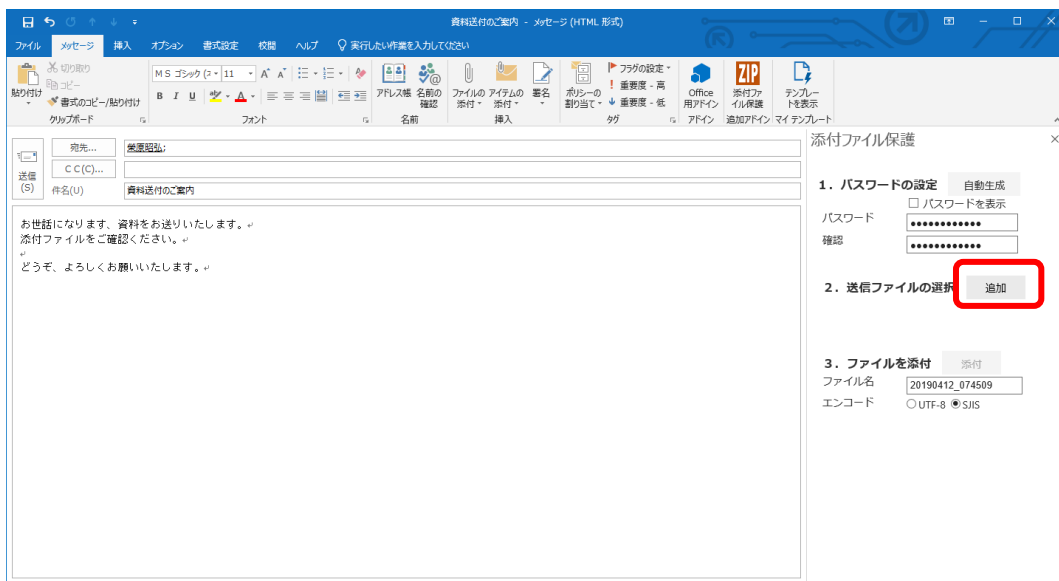
1. ファイルを添付するメールの準備をします。通常のメール作成手順と同じように宛先やタイトル、本文を作成します。



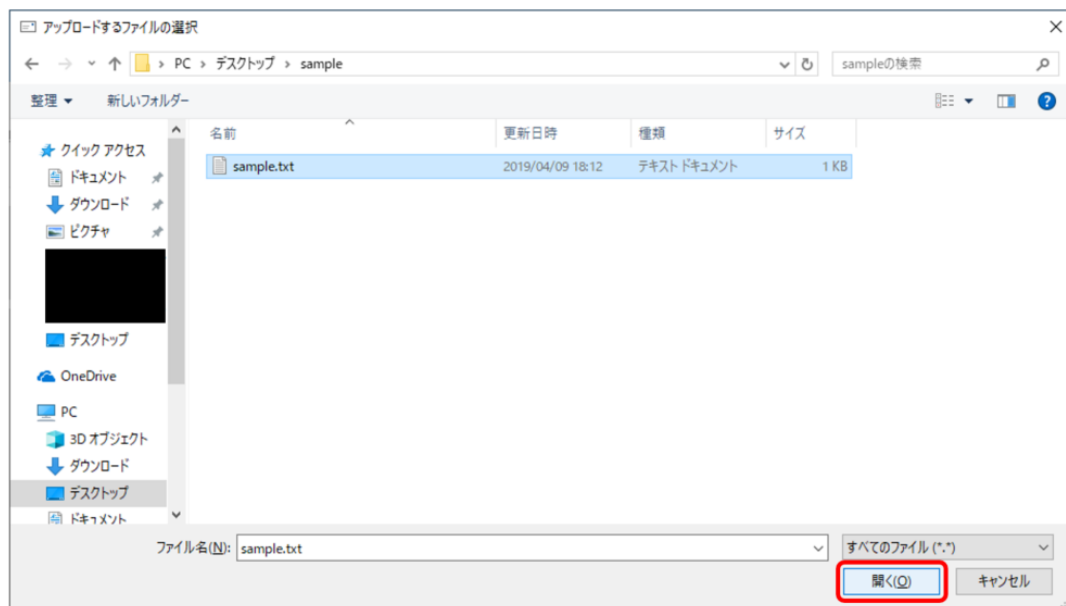
2. デスクトップ版 Outlook の右上に表示されている 「ZIP アイコン」をクリックし、「添付ファイル保護」を起動します。



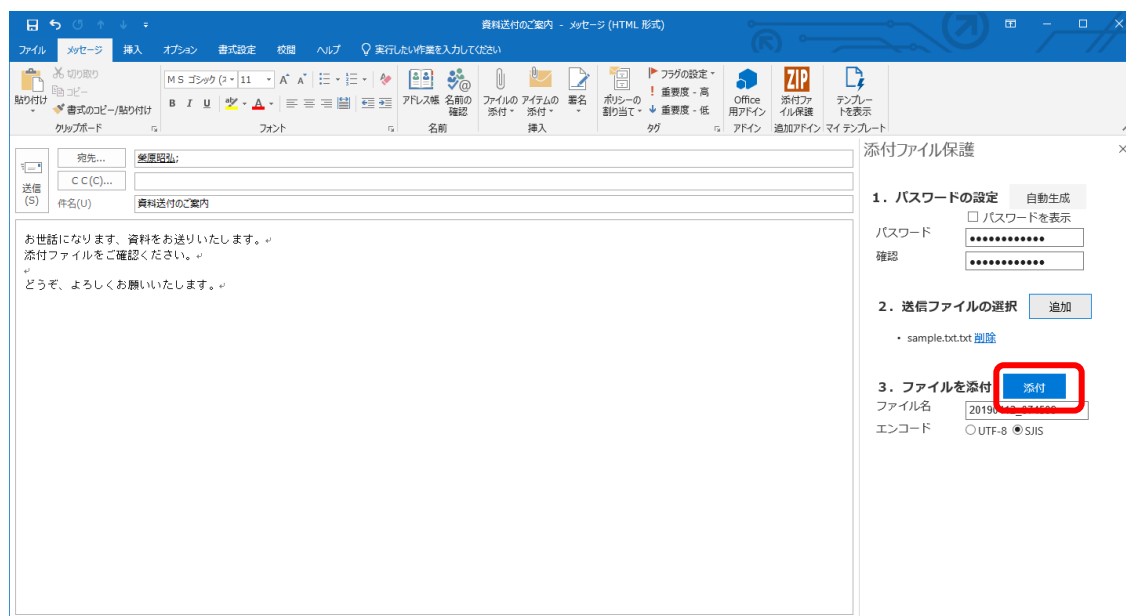
3. 「送信ファイルの選択」にある「追加」ボタンをクリックします。



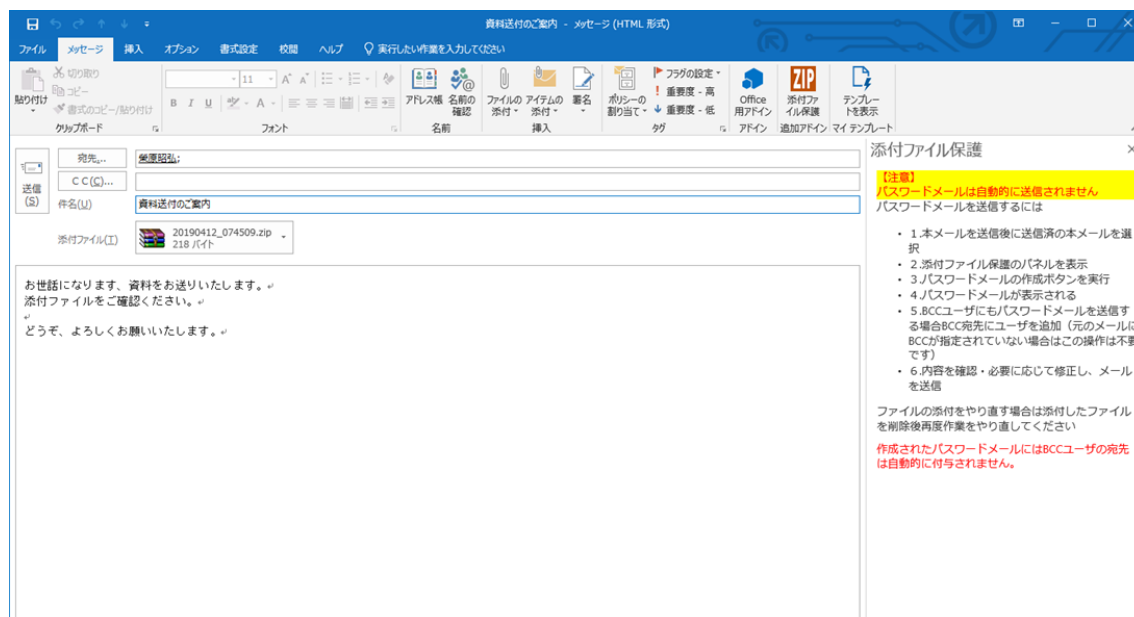
4. 添付するファイルを指定し「開く」ボタンをクリックします。



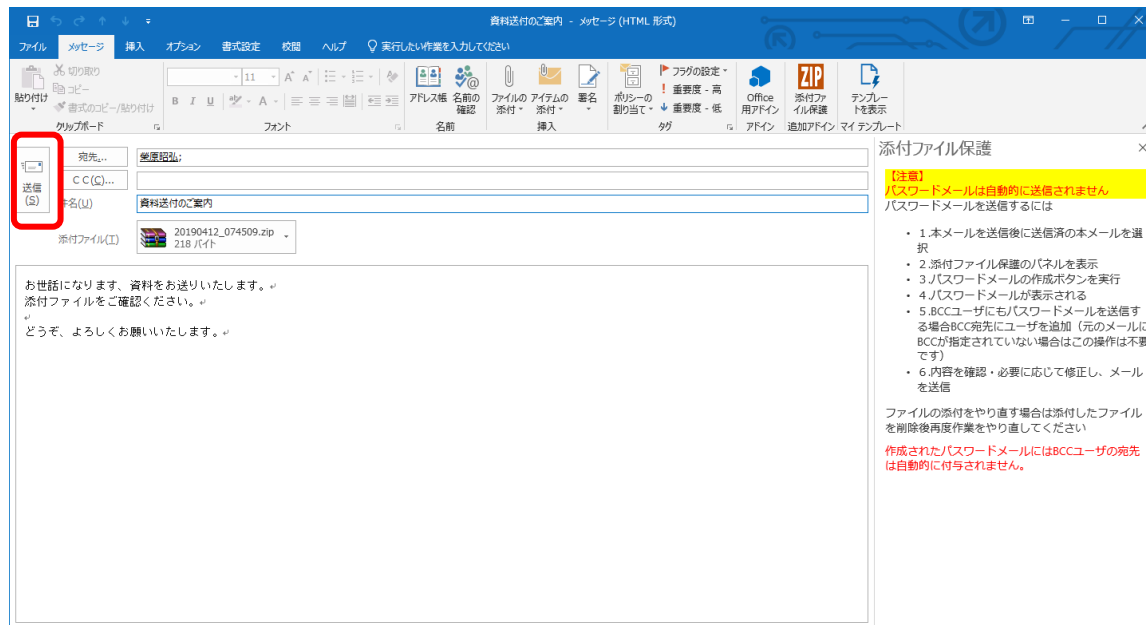
5. 添付ボタンでメールに ZIP 暗号化したファイルをメールに添付します。



ファイルの添付が完了するとアドインのパネルにパスワードメールの送信方法をガイドする内容が表示されます

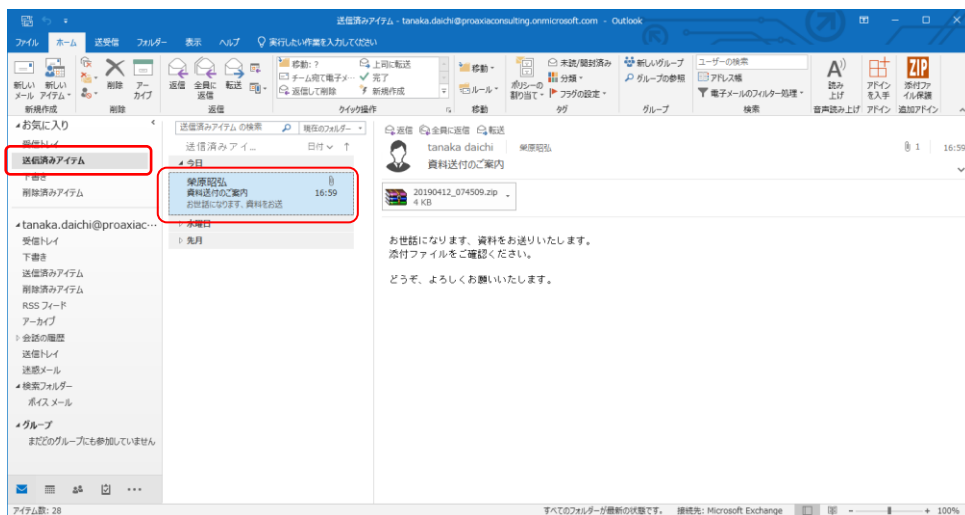


6. 送信ボタンでメールを送信します。(自動的にパスワードの通知メールは送信されませんので、送信後、後述するパスワード通知メールの送信を行います)

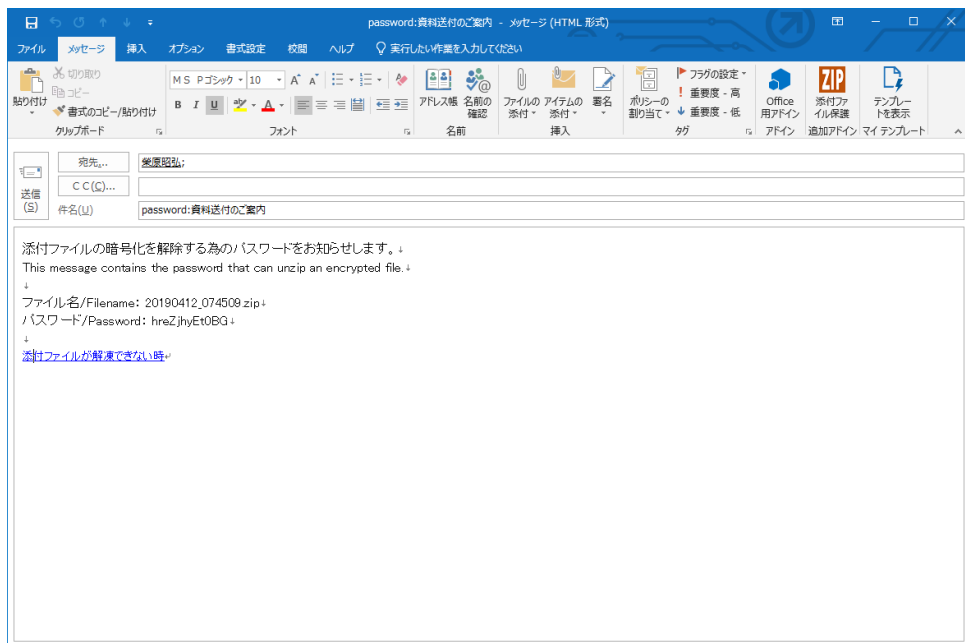


パスワード通知メールの送信（デスクトップ版 Outlook「ZIP アイコン」利用）

3. 左パネルの送信済みアイテムをクリックします。送信済みからファイル暗号化を実施したメールを選択します。



4. 作成されたメールを送信します。必要に応じて文面を変更することも可能です。

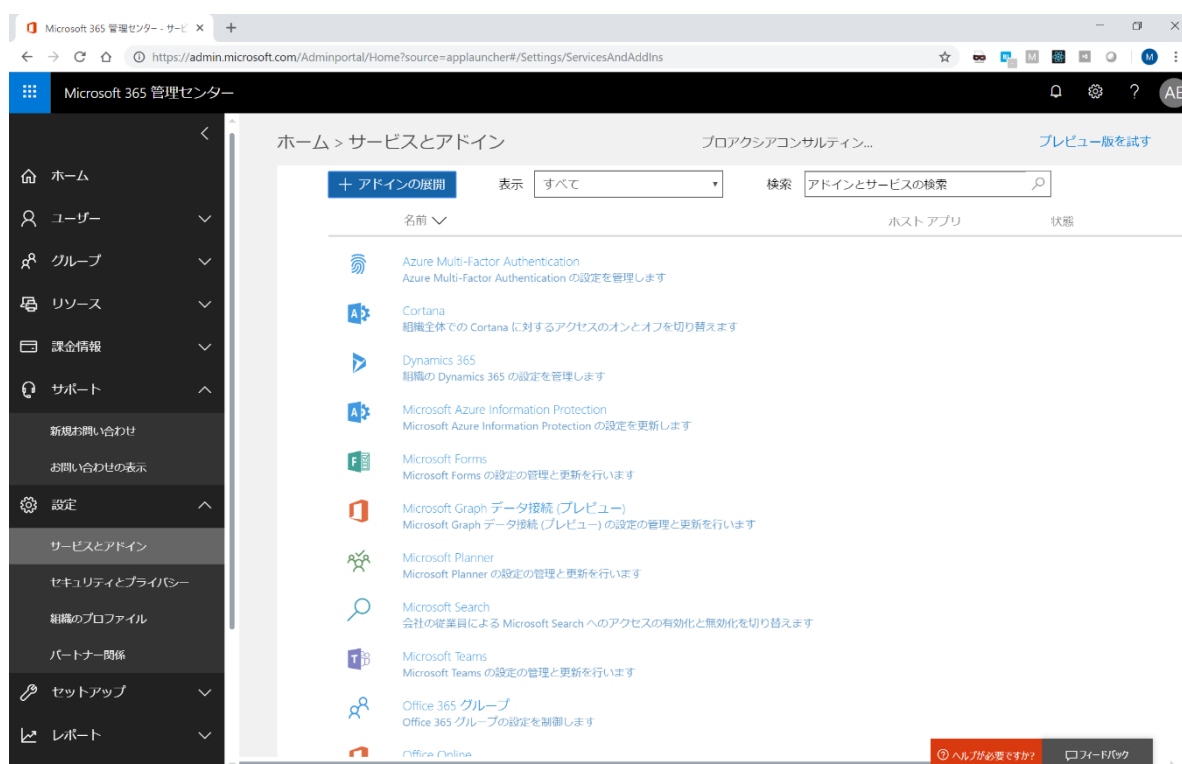


アドインインストール(マニフェストの登録)

アドインを利用するためには、自社 Office365 にアドインを登録する必要があります。以下の手順を参考に登録を実施してください。なお、社外メール送信警告アドインを利用する場合は事前に「社外メール送信警告アドイン インストール準備作業」を実施する必要があります。

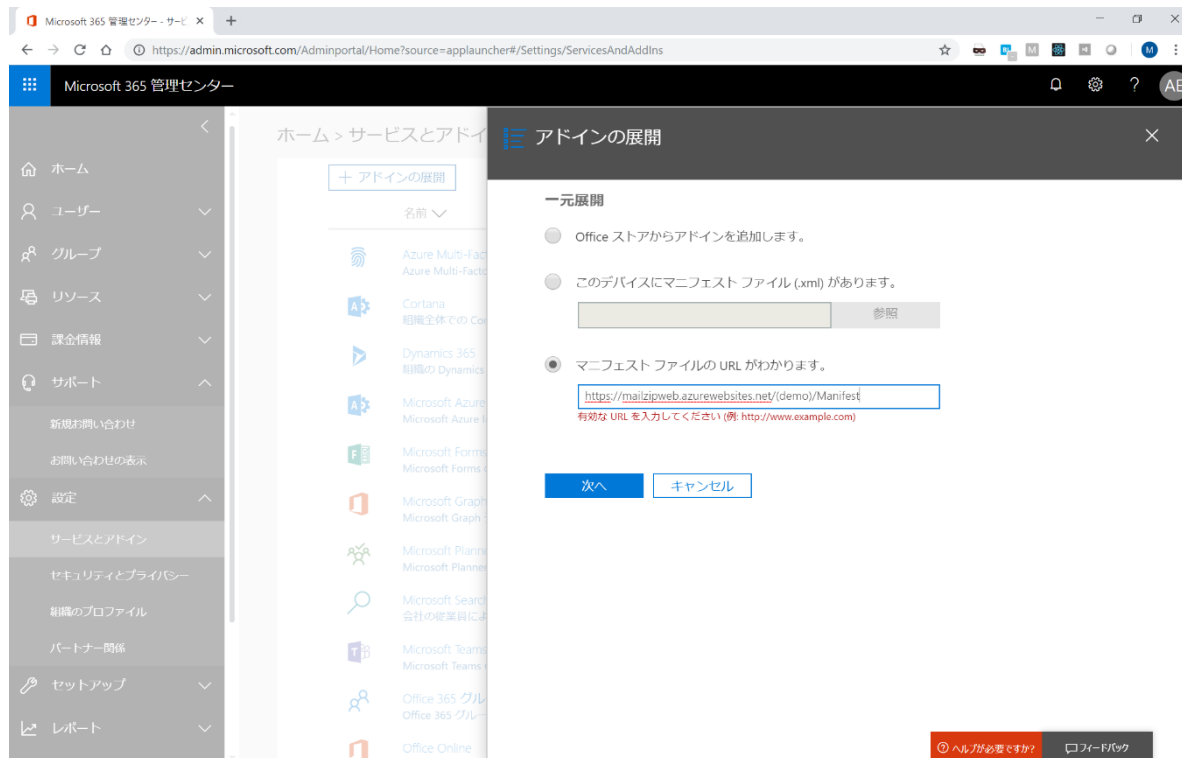
1. アドインの組織への展開

Microsoft 365 管理センターのサービスとアドインを選択しアドインの展開を選択



2. マニフェストの URL を指定

マニフェストの URL を指定してインストールを選択



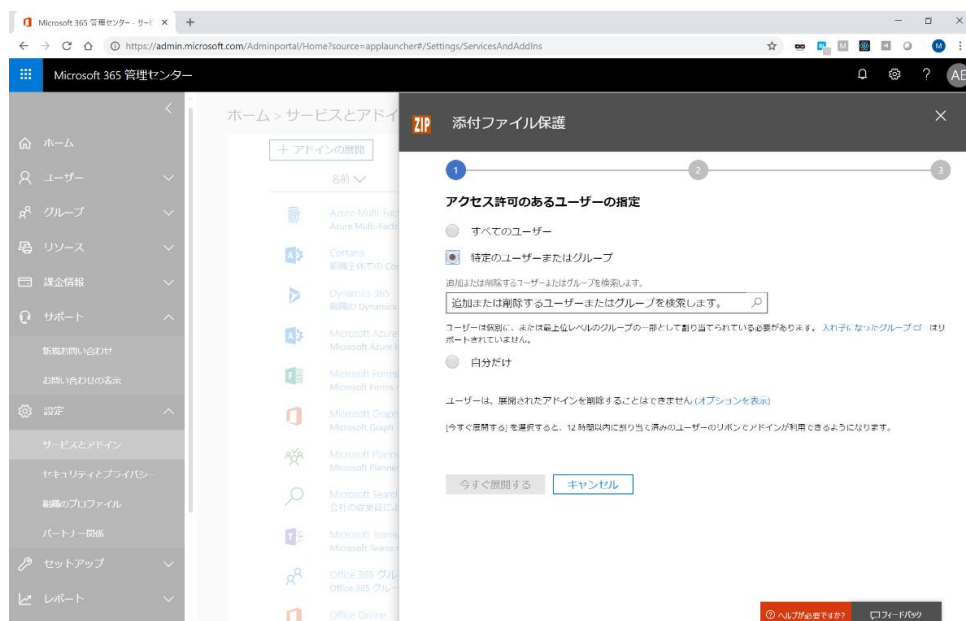
社外メール送信警告（デモ用） [https://mailcheckweb.azurewebsites.net/\(demo\)/Manifest](https://mailcheckweb.azurewebsites.net/(demo)/Manifest)

添付ファイル暗号化（デモ用） [https://mailzipweb.azurewebsites.net/\(demo\)/Manifest](https://mailzipweb.azurewebsites.net/(demo)/Manifest)

アドインの登録はそれぞれ必要です。上記はデモ用で、評価・正式利用する場合は()部は提供された URL をご利用ください。

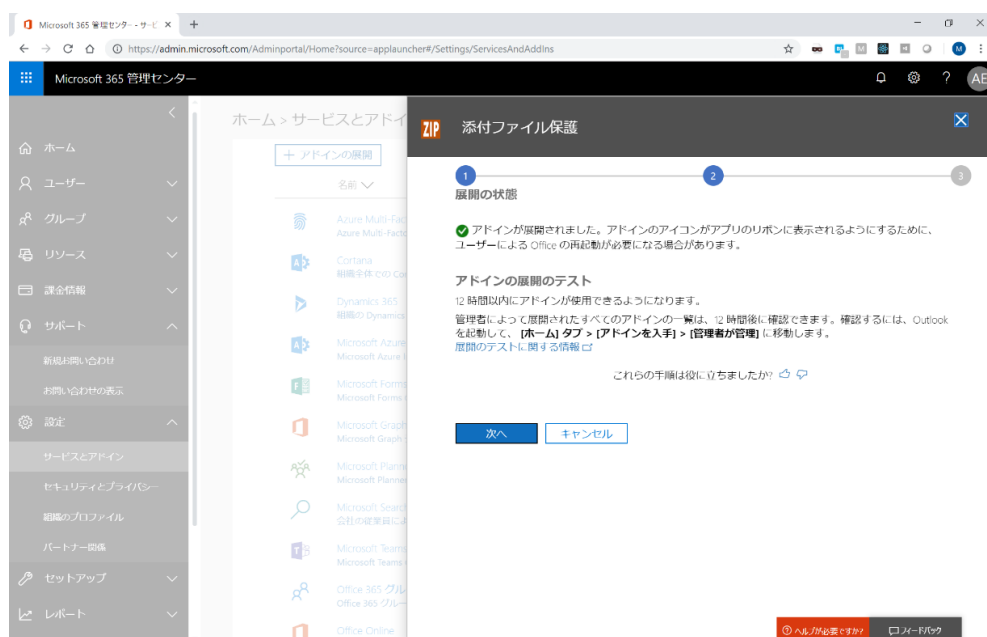
3. 適用ユーザの設定

アドインを適用するユーザを指定します。すべてのユーザ、指定したグループ、自分だけを選択できます。



4. 展開する

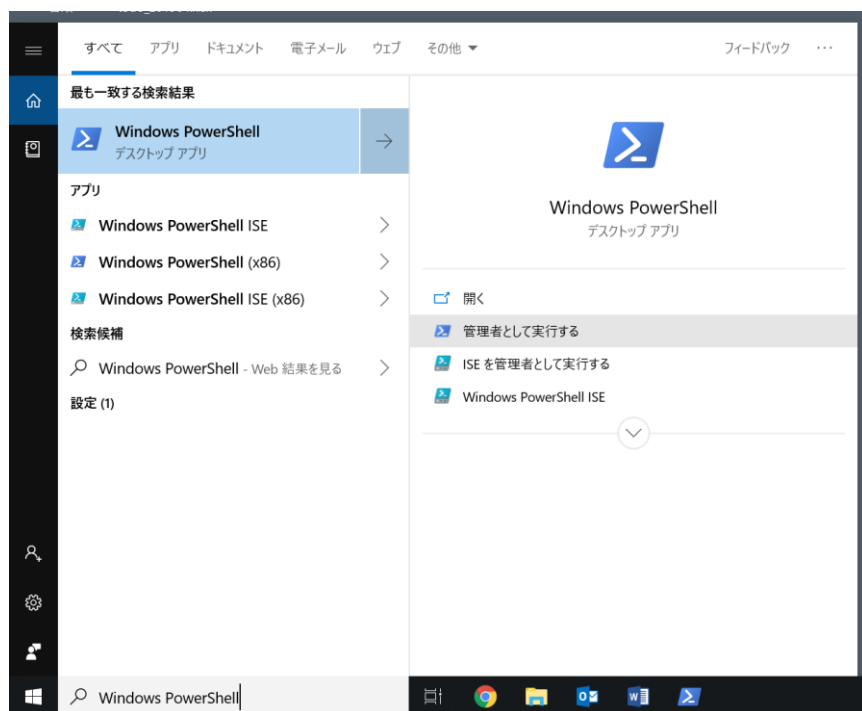
「今すぐ展開する」でアドインを展開します。展開が完了するまで数時間～12 時間程度かかります。



社外メール送信警告アドイン インストール準備作業

社外メール送信警告のアドインを利用するためには [Outlook アドインの送信時機能](#)の「送信時機能の有効化」作業が必要です。下記①～④を実行してください。

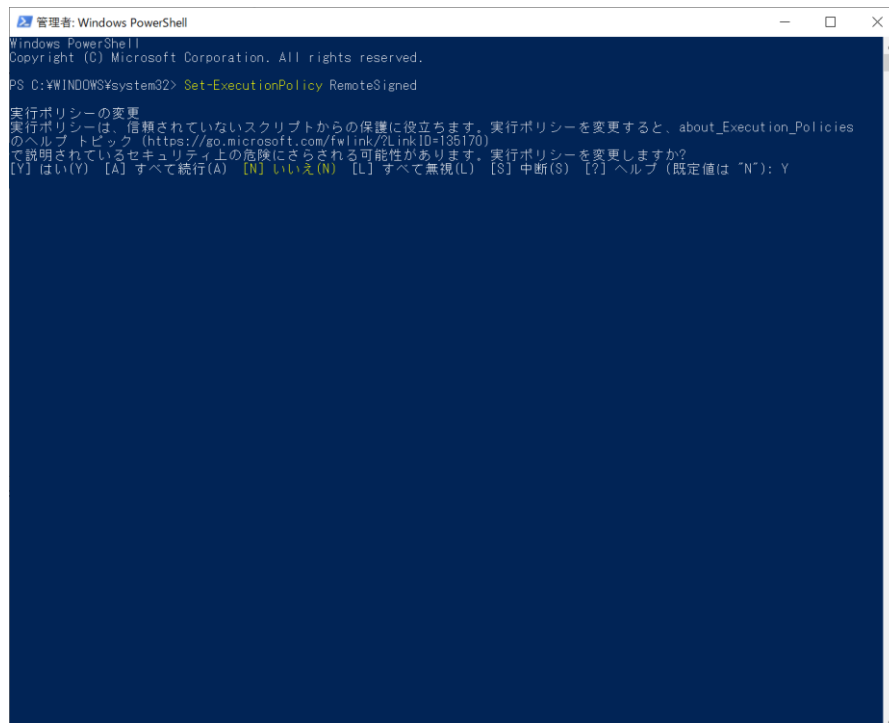
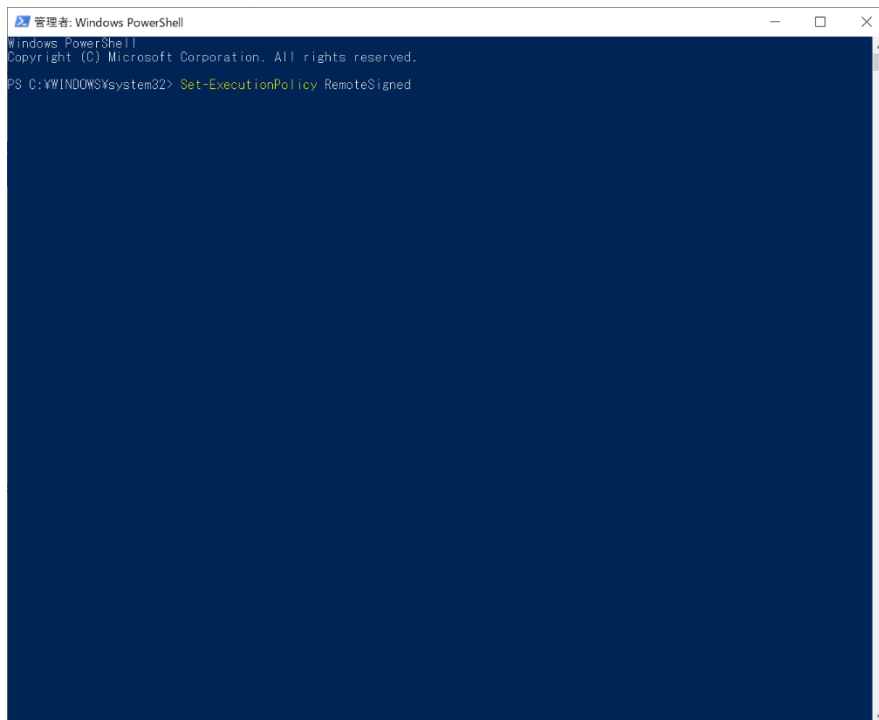
①ローカルコンピューターで Windows PowerShell を「管理者」として実行



「管理者として実行する」を押した後、「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」のダイアログが表示されるので、「はい」ボタンをクリック

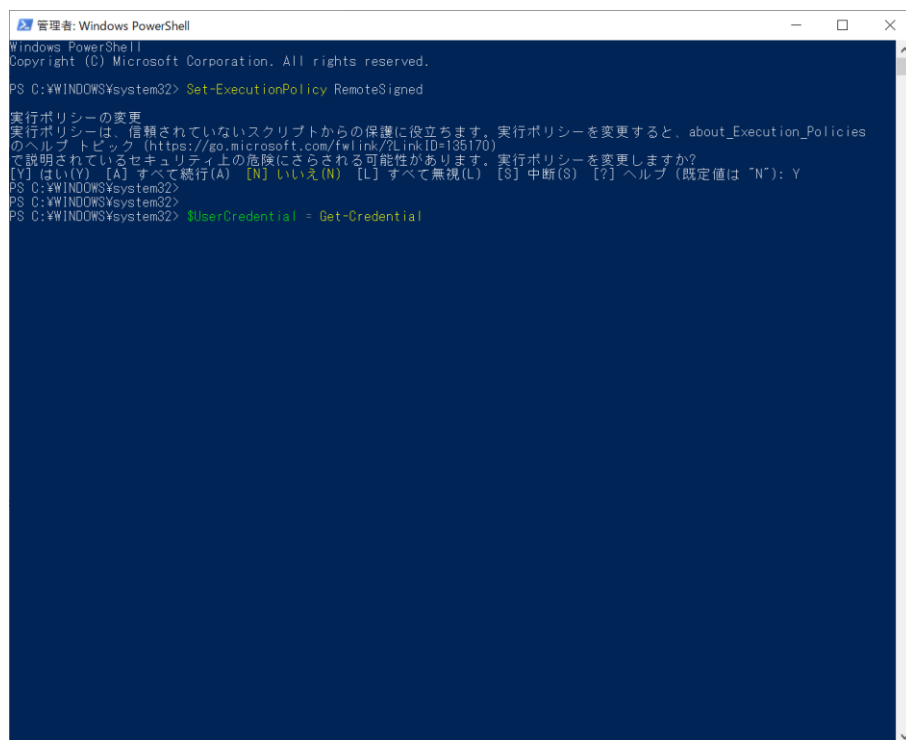
②立ち上げた Windows PowerShell より Exchange Powershell Online に接続するために、下記のコマンドレット（PC に処理させるための命令）を入力の上 Enter キーを押し実行

- Set-ExecutionPolicy RemoteSigned



上記コマンドレットを実行後、この画面
で Y を入力し Enter キーを押す

- \$UserCredential = Get-Credential

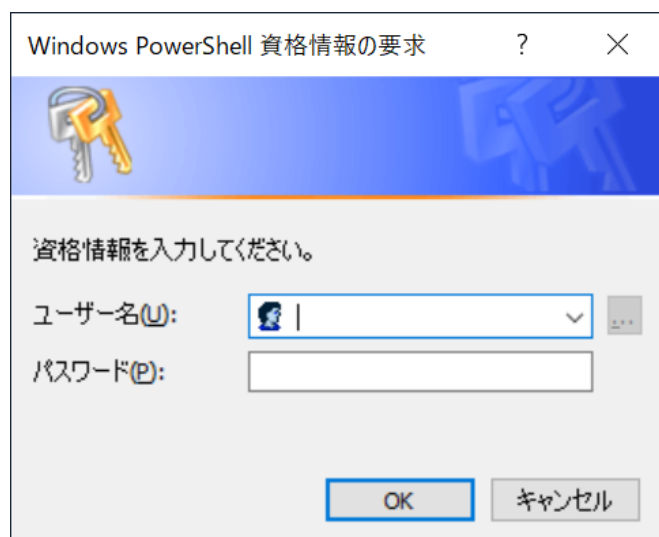


```
管理: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\WINDOWS\system32> Set-ExecutionPolicy RemoteSigned

実行ポリシーの変更
実行ポリシーは、信頼されていないスクリプトからの保護に役立ちます。実行ポリシーを変更すると、about_Execution_Policies
のヘルプ トピック (https://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=135170)
で説明されているセキュリティ上の危険にさらされる可能性があります。実行ポリシーを変更しますか?
[Y] はい(Y)  [A] すべて続行(A)  [N] いいえ(N)  [L] すべて無視(L)  [S] 中断(S)  [?] ヘルプ (既定値は "N"): Y
PS C:\WINDOWS\system32>
PS C:\WINDOWS\system32> $UserCredential = Get-Credential
```

上記コマンドレットを実行後、下記ダイアログにユーザー名およびパスワードを入力し、
「OK」 ボタンをクリック



Windows PowerShell 資格情報の要求

資格情報を入力してください。

ユーザー名(U):

パスワード(P):

OK キャンセル

• \$Session = New-PSSession -ConfigurationName Microsoft.Exchange -ConnectionUri

https://outlook.office365.com/powershell-liveid/ -Credential \$UserCredential -Authentication

Basic -AllowRedirection

```
管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\WINDOWS\system32> Set-ExecutionPolicy RemoteSigned

実行ポリシーの変更
実行ポリシーは、信頼されていないスクリプトからの保護に役立ちます。実行ポリシーを変更すると、about_Execution_Policies
のヘルプトピック (https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=135170)
で説明されているセキュリティ上の危険にさらされる可能性があります。実行ポリシーを変更しますか?
[Y] はい(Y) [A] すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L] すべて無視(L) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "N"): Y
PS C:\WINDOWS\system32>
PS C:\WINDOWS\system32> $UserCredential = Get-Credential
 Credential
PS C:\WINDOWS\system32> $Session = New-PSSession -ConfigurationName Microsoft.Exchange -ConnectionUri https://outlook.office365.com/powershell-liveid/ -Credential $UserCredential -Authentication Basic -AllowRedirection
PS C:\WINDOWS\system32>
PS C:\WINDOWS\system32>
```

• Import-PSSession \$Session -DisableNameChecking

```
管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\WINDOWS\system32> Set-ExecutionPolicy RemoteSigned

実行ポリシーの変更
実行ポリシーは、信頼されていないスクリプトからの保護に役立ちます。実行ポリシーを変更すると、about_Execution_Policies
のヘルプトピック (https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=135170)
で説明されているセキュリティ上の危険にさらされる可能性があります。実行ポリシーを変更しますか?
[Y] はい(Y) [A] すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L] すべて無視(L) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "N"): Y
PS C:\WINDOWS\system32>
PS C:\WINDOWS\system32> $UserCredential = Get-Credential
 Credential
PS C:\WINDOWS\system32> $Session = New-PSSession -ConfigurationName Microsoft.Exchange -ConnectionUri https://outlook.office365.com/powershell-liveid/ -Credential $UserCredential -Authentication Basic -AllowRedirection
PS C:\WINDOWS\system32>
PS C:\WINDOWS\system32> Import-PSSession $Session -DisableNameChecking

ModuleType Version Name ExportedCommands
-----
Script 1.0 tmp_qlnb2riv.wit {Add-DistributionGroupMember, Add-MailboxFolderPermission,...}

PS C:\WINDOWS\system32>
PS C:\WINDOWS\system32>
```


③ 下記コマンドレットを実行し OnSendAddinsEnabled フラグを true に設定してください。全てのユーザに対して有効にするためには次の Exchange Online PowerShell コマンドレットを実行します。

- New-OWAMailboxPolicy OWAOnSendAddinAllUserPolicy
- Get-OWAMailboxPolicy OWAOnSendAddinAllUserPolicy | Set-OWAMailboxPolicy - OnSendAddinsEnabled:\$true
- Get-User -Filter {RecipientTypeDetails -eq 'UserMailbox'}|Set-CASMailbox - OwaMailboxPolicy OWAOnSendAddinAllUserPolicy

※注意※ 新しいユーザーを追加した場合、改めて上記コマンドレットを実行する必要があります。

④ 設定が全て完了したら、下記コマンドを入力し PowerShell セッションを切断します

- Remove-PSSession \$Session

インストールオプション

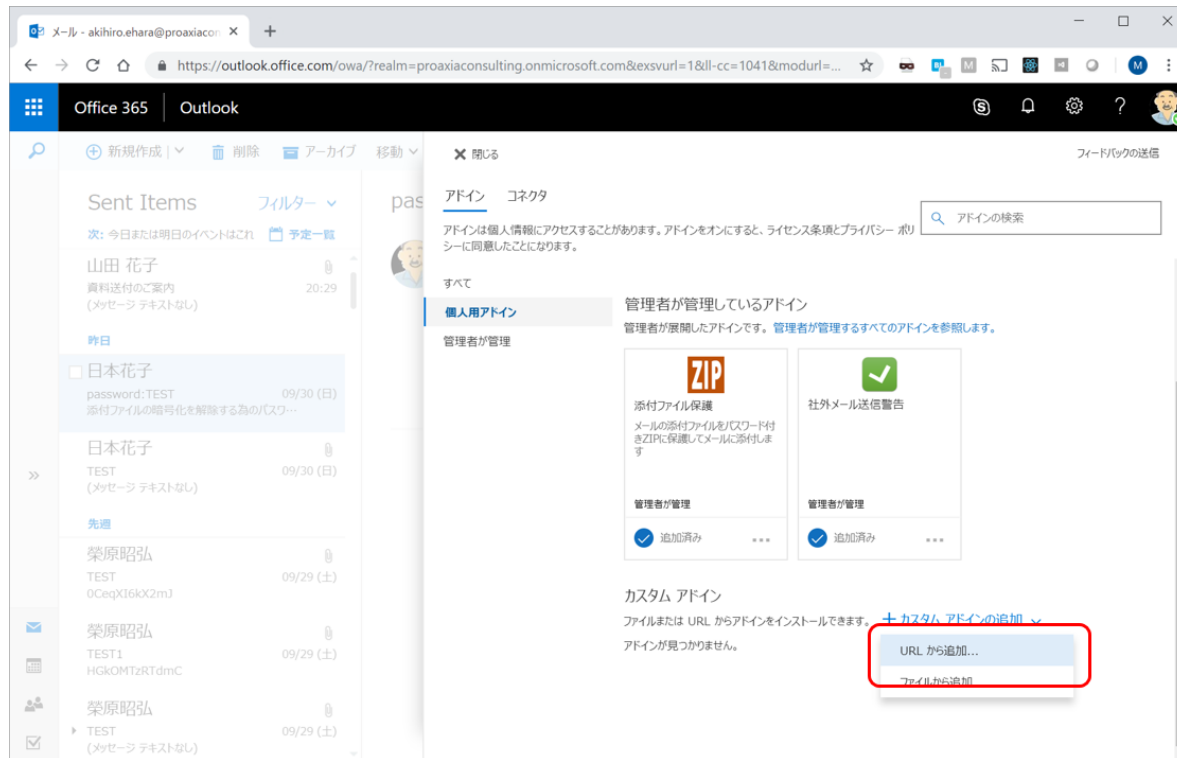
アドインの動作を変更するオプションがあります。マニフェストの URL に指定することで有効になります。

社外メール送信警告

ホワイトリスト指定	「w1=ドメイン」のように指定すると指定したドメインは社内と同じと扱われ警告されません。複数指定する場合は w2,w3 を指定します。 https://mailcheckweb.azurewebsites.net/(demo)/Manifest?w1=sample.co.jp&w2=hoge.co.jp
タイムアウト時間	「t=10」のように指定すると送信時のカウントダウン秒数を変更することができます https://mailcheckweb.azurewebsites.net/(demo)/Manifest?t=10
ZIP 暗号化連携	「zip=1」のように指定すると添付ファイル暗号化アドインで暗号化したファイルを送信した際に自動的にパスワード送信メールを作成します。動作するためには、添付ファイル暗号化アドインが表示されたまま送信処理を行うなど条件があります。 https://mailcheckweb.azurewebsites.net/(demo)/Manifest?zip=1

参考) アドインインストール(マニフェストの登録 個人ユーザ毎)

評価を目的に個人ユーザに Outlook アドインを設定する場合、Outlook の設定の「アドインの管理」から登録できます。



この方法でも、社外メール送信警告アドインを利用する場合は事前に「社外メール送信警告アドイン インストール準備作業」を実施する必要があります。